

## 株主の皆様へ／取締役社長 小林喜光

● 第8期決算のご報告

もっと知りたい! 三菱ケミカルホールディングス  
「APTSIS 15」 Step 2がスタートしました!!

“KAITEKI実現”

チャレンジ!! KAITEKI

中空糸膜フィルターを活用したクリンスイで、  
水資源問題をはじめ、CO<sub>2</sub>排出量削減・環境問題に貢献

証券コード 4188

株主の皆様へ

## 株主の皆様へ



取締役社長

小林 喜光

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当期における日本経済は、東日本大震災からの復興需要や金融政策の効果等を背景に改善の動きが見られたものの、全般的には、世界経済の減速により輸出が低迷するなど、本格的な回復には至りませんでした。このような中で、当社グループは、5か年の中期経営計画「APTSIS 15」のもと、グループ内を横断的に括った5つの事業分野（ヘルスケアソリューション、樹脂加工・情報電子、アクア関連部材、炭素繊維複合材及びスペシャリティケミカルズ）において、グループ全体の戦略の立案と遂行を目的として、各基幹事業会社の社長をミッションコーディネーターに任命し、シナジーの発現を加速させるなど、グループ総合力の強化を図りました。さらに、事業環境が変化する中で不採算事業の整理・撤退など事業構造改革を加速させるとともに、収益改善に向けて、徹底したコスト削減、設備投資の見直し等の諸施策にグループを挙げて取り組みました。

当期連結業績の詳細は次頁以下に記載の通りですが、機能商品分野及び素材分野において需要が低調に推移したこと等により、売上高は3兆885億円となり、利益面では、営業利益

は902億円、経常利益は870億円、当期純利益は185億円となりました。当期の期末配当金につきましては、当期の連結業績、中長期的な安定配当等を総合的に勘案し、1株につき1円増配の6円とさせていただきます。

当社グループは、今般、「APTSIS 15」の後半3か年の計画の見直しを実施いたしました。その概要は後記の通りですが、当社グループは、今般見直した中期経営計画に則り、グループの協奏による総合力のさらなる強化を図るとともに、シェールガス革命などによる事業環境の激しい変化に対応する戦略的施策や国際競争力を有する事業の強化・拡充など事業構造改革を実行し、企業体質の強化に取り組んでまいります。さらに、社会から信頼される企業グループを目指して、安全管理の徹底に取り組むとともに、コンプライアンスやリスク管理の重要性について徹底を図ってまいります。

当社グループは、これらの経営諸課題にグループの総力を挙げて対処し、企業価値・株主価値の一層の向上に努めてまいりますので、何卒倍旧のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年6月

## CONTENTS

■ 株主の皆様へ	1	■ “KAITEKI実現”	
■ 連結業績の概要	2	■ チャレンジ!! KAITEKI	9
■ セグメント別業績	3	■ 財務諸表の概要	11
■ 各事業会社の活動・トピックス	5	■ 株式の状況	13
■ もっと知りたい! 三菱ケミカルホールディングス		■ 会社概要	14
「APTSIS 15」 Step 2がスタートしました!!	7		

※「APTSIS」とは、Agility（俊敏に、とにかく速く）、Principle（原理原則・理念の共有）、Transparency（透明性・説明責任・コンプライアンス）、Sense of Survival（崖っぷちにあるという意識・危機感）、Internationalization（グローバル市場でのパフォーマンス向上）、Safety, Security & Sustainability（製造における安全、品質における安心、情報セキュリティ及び環境対応）のそれぞれの頭文字をとった造語で、当社グループの行動指針です。

## 連結業績の概要

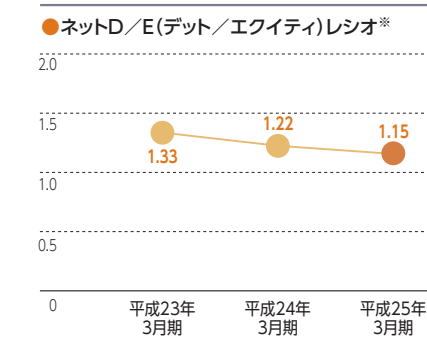
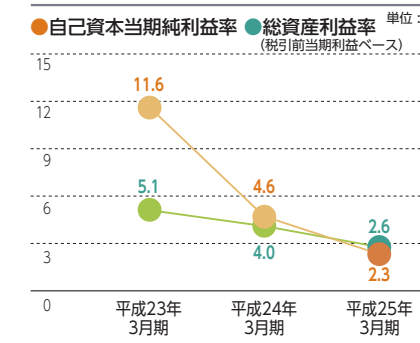
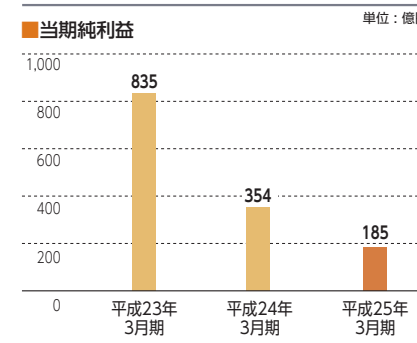
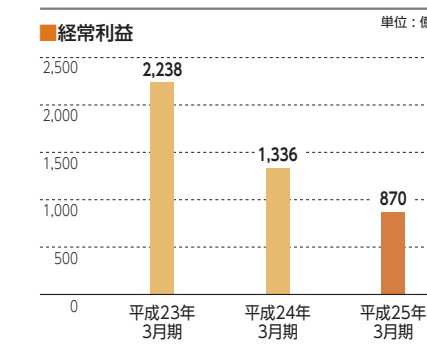
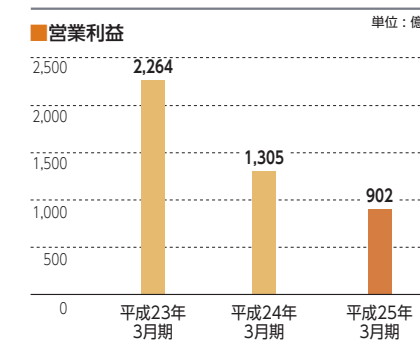
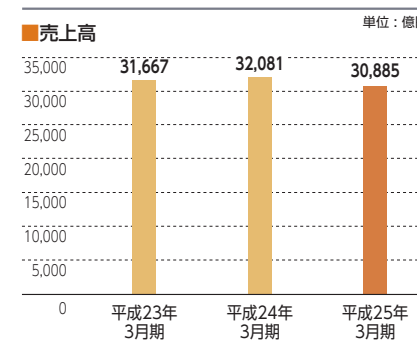
### 円高や海外市場での需要減少等による厳しい事業環境の中、減収・減益となりました。

#### 円高の継続、海外市場における需要減少など、厳しい事業環境が継続

当期は、第3四半期後半まで円高基調が継続し、また、中国などの海外市場において需要が減少するなど、厳しい事業環境となりました。当期連結業績は、売上高は3兆885億円（前期比1,195億円減）となり、利益面では、営業利益は902億円（前期比403億円減）、経常利益は870億円（前期比465億円減）、当期純利益は185億円（前期比168億円減）となりました。





#### ネットD/Eレシオが0.07ポイント改善

総資産は、円高の修正に伴い海外連結子会社の資産の円貨換算額が増加したこと、また、クオリカプス（株）の完全子会社化等により、3兆3,077億円（前期末比1,337億円増）となり、また、負債は、円高の修正により負債の円貨換算額が増加したこと等により、2兆1,044億円（前期末比754億円増）となりました。この結果、ネットD/Eレシオは1.15となりました。



※ネットD/Eレシオとは、以下の数式によって算出される比率のことで、財務体質の健全性を表す指標の一つです。数値が小さいほど健全性が高いことを示します。  
 ネットD/Eレシオ = {有利子負債（割引手形を含む） - （現金・現金同等物+手元運用資金残高）} ÷ 自己資本

# セグメント別業績

	単位:億円		三菱化学	田辺三菱製薬	三菱樹脂	三菱レイヨン		( )内の数字は対前期比	
機能商品	<b>エレクトロニクス・アプリケーションズ</b> 売上高 1,337 (平24) / 1,181 (平25) 営業利益 △50 (平24) / △53 (平25) 売上高構成比 <b>3.8%</b>	<b>デザイン・マテリアルズ</b> 売上高 6,998* (平24) / 6,897 (平25) 営業利益 256* (平24) / 225 (平25) 売上高構成比 <b>22.3%</b>					<b>エレクトロニクス・アプリケーションズ</b> 《売上高》1,181億円(155億円減) 記録材料…DVD市場の縮小、外付けハードディスクの販売数量が減少 電子関連製品…ディスプレイ材料、LED向け蛍光体の販売数量が増加 情報機材…OPC、トナーの販売数量が減少 《営業損益》△50億円(2億円損失減) 主として電子関連製品の売上げ堅調により損益改善	<b>デザイン・マテリアルズ</b> 《売上高》6,897億円(101億円減) 食品機能材…順調に推移 電池材料…販売数量の減少、販売価格の低下 樹脂加工品…フラットパネルディスプレイ向け及びタッチパネル向けフィルムの販売が順調に推移 複合材…アルミナ繊維の販売が順調に推移 《営業利益》225億円(31億円減) 海外需要低迷による販売数量の減少等により減益	
	ヘルスケア	売上高 5,024 (平24) / 5,143 (平25) 営業利益 763 (平24) / 749 (平25) 売上高構成比 <b>16.6%</b>					<b>ヘルスケア</b> 《売上高》5,143億円(118億円増) 医薬品…抗ヒトTNFαモノクローナル抗体製剤「レミケード」等の売上げが増加 診断製品及び臨床検査…販売減少により売上げが減少 《営業利益》749億円(14億円減) 薬価改定の影響及び創薬支援事業の減収等により減益		
素材	<b>ケミカルズ</b> 売上高 10,074 (平24) / 9,036 (平25) 営業利益 148 (平24) / △2 (平25) 売上高構成比 <b>29.2%</b>	<b>ポリマーズ</b> 売上高 6,586* (平24) / 6,756 (平25) 営業利益 237* (平24) / 1 (平25) 売上高構成比 <b>21.8%</b>					<b>ケミカルズ</b> 《売上高》9,036億円(1,038億円減) 基礎石化製品…エチレンの生産量113万トン(16.3%増) 合成繊維原料…市況の下落等により売上げが減少 炭素製品…コークスの原料炭価格の低下に伴う販売価格の低下により売上げが減少 《営業損益》△2億円(150億円減) 原料と製品の価格差の大幅な縮小等により減益	<b>ポリマーズ</b> 《売上高》6,756億円(170億円増) 合成樹脂…MMAモノマー及びアクリル樹脂等の市況が下落したものの売上げは前期並み 《営業利益》1億円(236億円減) 原料と製品の価格差の大幅な縮小等により減益	
	その他	売上高 2,058 (平24) / 1,869 (平25) 営業利益 61 (平24) / 64 (平25) 売上高構成比 <b>6.0%</b>					<b>その他</b> 《売上高》1,869億円(189億円減) エンジニアリング事業…外部売上が減少 物流事業…順調に推移 《営業利益》64億円(3億円増) 固定費の減少等により増益		

\*平成25年3月期より、一部の連結子会社について「ポリマーズ」から「デザイン・マテリアルズ」へ所属セグメントを変更しております。これに伴い、比較情報としての平成24年3月期実績を組み替えております。

## 各事業会社の活動・トピックス

### 三菱化学

#### 機能商品

- 日本合成化学工業の子会社であるノルテックス社（米国）が、ハイガスバリア性EVOH樹脂「ソアノール」の生産能力の増強を決定（昨年12月）

#### ヘルスケア

- 三菱化学メディエンスが、ドーピング検査において、より精度の高いダルベポエチンアルファ（dhEPO）の検出法を開発（本年2月）

#### 素材

- 鹿島事業所において、石油化学製品の高機能・高付加価値化に向けた体制構築のため、基礎石油化学事業の構造改革の一環として、第1エチレンプラント等の停止を決定（昨年6月）
- 機能性樹脂事業の基盤強化と拡大を図るため、南米のブラジルにおいて製造販売会社を設立するとともに（昨年8月）、欧州及び北米において、それぞれテッセンデルロ社（ベルギー）及びコムトレックス社（米国）から樹脂コンパウンド事業を買収することを決定（本年2月）

### 田辺三菱製薬

#### ヘルスケア

- 沈降精製百日せきジフテリア破傷風不活化ポリオ（セービ

ン株）混合ワクチン「テトラビック皮下注シリンジ」の販売を開始（昨年10月）

- 欧州において高リン血症治療薬「ビンドレン」の販売承認を取得（本年1月）
- 2型糖尿病治療薬「TA-7284」について、導出先のヤンセン・ファーマシューティカルズ社（米国）が、米国において承認を取得（本年3月）
- アスパラギン酸カリウム・マグネシウム配合の指定医薬部外品ドリンク剤「アスパラドリンクα」の新発売を発表（本年3月）



混合ワクチン「テトラビック皮下注シリンジ」



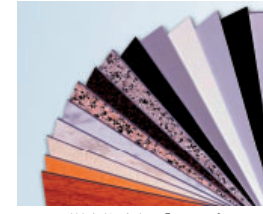
「アスパラドリンクα」とイメージキャラクター「スギちゃん」

### 三菱樹脂

#### 機能商品

- 坂出工場において、アルミナ繊維「MAFTEC」の製造設備を増設（昨年5月及び本年2月）
- 中国において、農業ハウス用高機能フィルムの製造販売会社を設立（昨年5月）
- 管材事業を積水化学工業に譲渡（昨年12月）
- 環境・生活資材関連分野の事業再編に伴い三菱樹脂インフラテックを設立（本年1月）

- 内外装用建築材として使用されているアルミ樹脂複合板「アルポリック」について、欧州等における需要の拡大に対応するため、ドイツにおいて製造販売拠点を設立することを決定（本年2月）



アルミ樹脂複合板「アルポリック」

### 三菱レイヨン

#### 機能商品

- 豊田通商との間で、中国の大手水処理エンジニアリング会社の子会社に共同出資し、中国における水処理O&M（運営・管理）事業を開始することに合意（昨年4月）
- 三菱レイヨン・クリンスイが、新発想の携帯型浄水器「クリンスイ タンブラー」の販売を開始（昨年4月）
- クリンスイブランドによる備蓄用飲料水の販売を開始（本年3月）
- 北米におけるゴルフシャフト事業の一層の拡大強化を図るため、昨年12月に発表したアルディアラ社（米国）の買収を完了（本年4月）



携帯型浄水器「クリンスイ タンブラー」



備蓄用飲料水「クリンスイBTLS-20N」

## 三菱ケミカルホールディングスグループ 企業行動憲章の制定について

当社グループでは、KAITEKI実現に向け、当社グループが社会から信頼され、持続的に発展していけるように、従来の企業倫理憲章を発展的に再構築し、これまで企業倫理憲章等に記載されていた当社グループの組織・構成員としての具体的な行動規範を集約するとともに、企業の責任、企業活動の方向性を明確にした「企業行動憲章」を新たに制定しました。

今後は、「企業行動憲章」の各項目に関するガイドライン及び優先順位を付けた実施計画を策定し、実際の企業活動に反映させることで、当社グループの組織・構成員が、企業活動のあらゆる局面において、常に高い倫理観と社会的良識をもって行動することにより、KAITEKI実現に貢献していきます。

### 企業行動憲章に定める項目

自覚・責任	説明責任・透明性
法令等の遵守と公正・公平・誠実	
ステークホルダーの尊重	人権の尊重
雇用・労働	環境・安全
公正な事業慣行	顧客満足
情報管理	科学・技術
コミュニティ貢献	規範の共有

企業行動憲章の詳しい内容については、当社ホームページをご覧ください。

<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/group/charter.html>

# 「APTSIS 15」 Step 2がスタートしました!!

**Step2の考え方** 基本戦略は変えずに、目標と事業管理の手法を見直します。

## 「APTSIS 15」の基本戦略

- 体質強化** ▶ 協業によるシナジーの発現、財務体質の改善、さらなる事業構造改革
- 成長** ▶ 高機能・高付加価値事業の強化
  - ▶ 持続的社会的の実現に貢献する事業の拡大
  - ▶ いまだ有効な治療方法がない医療ニーズに応える医薬品の開発
  - ▶ 事業のグローバル展開
- 創造** ▶ 将来を見据えた創造事業の育成・展開
- 飛躍** ▶ 戦略的な事業の買収や提携

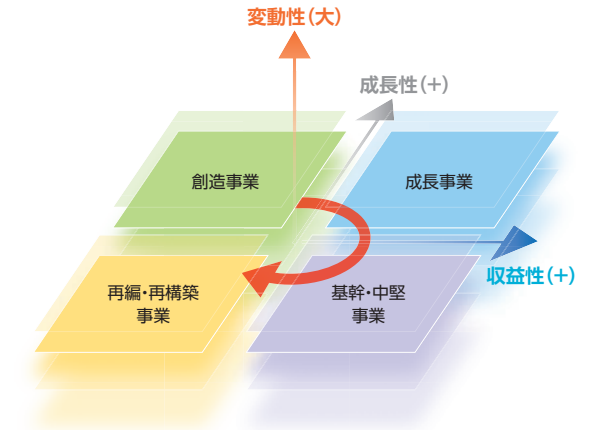
## 見直しのポイント

- 経営環境の悪化等を踏まえながら、自助努力による改善を重視し、実行可能な2015年度の目標を再設定しました。
- 事業予測が難しさを増す中で、より確度の高い事業管理を目指し、従来の事業管理手法に、「変動性」の軸を加えた新しい管理手法を導入しました。

2011年度からスタートした中期経営計画「APTSIS 15」について、当初の目標を下回る結果となったStep 1の結果を踏まえ、新しい管理手法のもと、さらなる企業価値の向上を目指してStep 2がスタートしました。

## 新しい管理手法

成長性や収益性に基づく事業のライフステージに応じたこれまでの四事業群（創造事業、成長事業、基幹・中堅事業、再編・再構築事業）での管理に加え、市場変動性（景気変動による影響の受けやすさ）を切り口とした成長モデルによる管理（安定事業、促進事業、変動事業）を新たに導入し、より確度の高い事業管理を目指します。



## 成長モデル別の戦略と執行のポイント

安定事業
安定的な利益の継続が期待できる事業
ポリエステルフィルム、OPLフィルム他、エンブラ製品、医療用医薬品、MMA/PMMA、高純度グラファイト、機能性樹脂、スペシャリティケミカルズ、高機能フィルム、食品機能材、診断検査/創薬支援サービス、コークスなど
<b>積極的に収益の維持・拡大を図ります。</b>

■ 創造事業 ■ 成長事業 ■ 基幹・中堅事業 ■ 再編・再構築事業

促進事業
市場の立ち上がりを捉えて高成長を推進する事業
有機太陽電池/部材、有機光半導体、高機能新素材 (AQSOA など)、次世代アグリビジネス、ヘルスケアソリューション、サステイナブルリソース、炭素繊維・複合材料、白色LED照明/部材、リチウムイオン電池材料、アクア関連部材/サービス
<b>事業自立化の加速を図ります。</b>

変動事業
外部要因による大きな変動が不可避と予想される事業
カーボン・ゴム、電子・産業フィルム、繊維、機能成形品、テレフタル酸、フェノール・ポリカーボネートチェーン、ポリオレフィン、石化基礎原料など
<b>収益の変動幅を抑え、安定的な収益を確保します。</b>

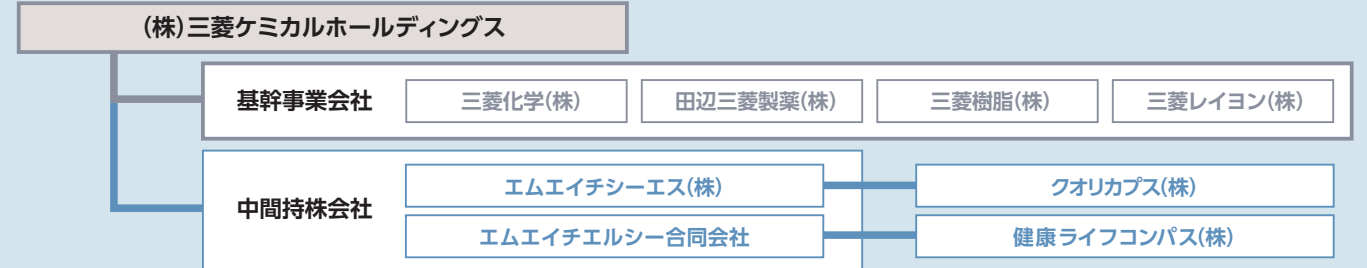
## 実現性を高めた2015年度のあるべき姿

	2015年度計画値	(ご参考) 当初計画値
営業利益	2,800億円	4,000億円
成長・創造	2,600億円	3,300億円
飛躍	200億円	700億円
ROA (税前利益)	7%以上	8%以上
ネットD/ELレシオ	0.8	1.0
海外売上高比率	45%以上	45%以上
設備投資・投融資	8,400億円	10,000億円

## ヘルスケアソリューション関連事業の育成に向けて

当社グループでは、ヘルスケアソリューション関連事業を機能商品、ヘルスケア及び素材の3つの事業分野に次ぐ新たな事業分野として成長させるため、三菱化学(株)、田辺三菱製薬(株)、三菱樹脂(株)及び三菱レイヨン(株)の4基幹事業会社に加え、

ヘルスケアソリューション関連事業を管理する会社(中間持株会社)を設立し、それらの会社を通じて、本年3月にクオリカプス(株)を買収し、また4月には健康ライフコンパス(株)を設立するなど諸施策を進めています。



# “KAITEKI実現” 「協奏による、さらなる成長・創造と飛躍」

KAITEKIとは、時を超え、世を超え、人と社会と地球の心地よい状態が持続することです。そのKAITEKI実現に向けて当社グループは取り組みを行っています。

## クオリカプス株式会社の子会社化



当社は、本年3月、当社の中間持株会社であるエムエイチシーエス(株)を通じて、クオリカプス(株)の発行済み株式のすべてを取得し当社の子会社としました。

クオリカプス(株)は1965年の設立以来、医薬品・健康食品用カプセル及び製剤関連機械の製造・販売を、日米欧の3拠点を軸に展開するグローバル企業であり、医薬品用カプセル市場においては20%を超える世界シェアを有しています。また同社は、今後年率10%以上の成長が予想されるセルロース系カプセル市場において、その技術・品質の優位性により、リーディングカンパニーとしての地位を確立しています。

クオリカプス(株)が有するグローバルな顧客ネットワークは、医薬品原体・医薬中間体事業など、当社グループのヘルスケア事業との補完性が高く、シナジーの実現が期待できます。



医薬品・健康食品用カプセル

## 健康ライフコンパス株式会社の設立

健康ライフコンパス 株式会社  
Healthy Life Compass Corporation

当社は、本年4月に、当社の中間持株会社であるエムエイチエルシー合同会社を通じて、健康ライフコンパス(株)を設立しました。

健康ライフコンパス(株)は、健康が気になる方などに、ドラッグストアでの自己採血によるセルフチェックサービス(当面は生活習慣病に関わる血液検査)を提供しています。自己採血により得られた血液サンプルは当社グループの三菱化学メディエンス(株)に送られ、同社の検査センターで分析された後、その検査結果はドラッグストアでお客様に手渡されます。

その他、健康ライフコンパス(株)は、健康関連サービス事業者と連携し、健康に関するさまざまな情報を提供することでお客様の健康の維持・増進をサポートしていきます。



専用のキットを使った自己採血の様子



## チャレンジ!! KAITEKI 04

### 中空糸膜フィルターを活用したクリンスイで、水資源問題をはじめ、CO<sub>2</sub>排出量削減・環境問題に貢献

#### 安全な水への取り組みで高い評価

地球にある水の総量は、約14億km<sup>3</sup>。その中で、私たちが直接利用できる水はわずか0.01%です。当社グループでは、そのような大切な水を水質汚染などの環境問題から守り、いつまでも安心して利用できるようにさまざまな取り組みを行っています。

当社グループの三菱レイオンは、長年培ってきた浄水技術を応用した工業用ろ過システム等のさまざまな水処理システムで高い評価を得ています。

#### 世界に先駆けて中空糸膜を家庭用浄水器に

浄水技術やろ過システムの要となるのが中空糸膜です。ストロー状の繊維を速度の異なるローラーで伸ばすと、その速度差と延伸力で、スリット状の超微細孔を持つ中空糸膜となります。

三菱レイオンが、世界に先駆けてこの中空糸膜をフィルターとして家庭用浄水器に組み込み製品化したのが「クリンスイ」です。

「クリンスイ」は、水道水のミネラルを残しつつ、「家庭用品品質表示法」に定められた除去対象13物質のほか、「(一社)浄水器協会」で定められた除去対象2物質をしっかり除去します。

#### 環境にやさしいクリンスイ

世界中で飲まれているペットボトル飲料水は、容器の製造やミネラルウォーターの注入、輸送の過程においてコストとエネルギーがかかるうえ、大量の空きボトルを生み出します。このペットボトル飲料水に代えて、クリンスイで浄水した水道水を利用することで、ゴミやエネルギーの削減につながります。



中空糸膜断面

#### 家庭用浄水器クリンスイで KAITEKI に貢献

##### 高い浄水能力

高い浄水能力により、赤サビなどが混入した水道水も、無色透明なきれいな水にろ過。安全で美味しい水を提供

##### ゴミの削減を実現

クリンスイのカートリッジ1本の浄水能力は、2ℓペットボトル約450本分(900ℓ)に相当。ゴミの減量とCO<sub>2</sub>排出量削減に貢献

#### いつでも、美味しく、安心の水が飲める

##### 容量250mlの携帯型浄水器「クリンスイ タンブラー」

昨年4月に発売した「クリンスイ タンブラー」は、活性炭を使って浄水するので、水道水を入れて振るだけで簡単に塩素を除去できます。また、手軽に持ち運びできるサイズなので、オフィスや旅行先、スポーツの時など、いつでも手軽に美味しい水が飲めます。



# 財務諸表の概要

## 連結貸借対照表

科目	当期		科目	前期	
	[平成25年3月31日現在]	[平成24年3月31日現在]		[平成25年3月31日現在]	[平成24年3月31日現在]
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	14,566	13,777	流動負債	12,537	10,701
現金・預金	1,159	1,147	支払手形・買掛金	4,169	4,112
受取手形・売掛金	5,882	5,933	短期金融債務	5,455	3,963
たな卸資産	5,469	5,160	その他	2,912	2,625
その他	2,075	1,559	固定負債	8,506	9,588
貸倒引当金	△ 19	△ 24	長期金融債務	6,532	7,677
固定資産	18,511	17,962	その他	1,974	1,910
有形固定資産	10,615	10,327	負債合計 <b>Point 2</b>	21,044	20,290
投資有価証券	3,538	3,468	(純資産の部)		
のれん	1,799	1,418	株主資本	8,354	8,316
その他	2,557	2,748	資本金	500	500
資産合計 <b>Point 1</b>	33,077	31,739	資本剰余金	3,176	3,176
			利益剰余金	4,790	4,747
			自己株式	△ 112	△ 107
			その他の包括利益累計額	△ 199	△ 608
			新株予約権	5	6
			少数株主持分	3,872	3,735
			純資産合計	12,033	11,449
			負債及び純資産合計	33,077	31,739

## 連結株主資本等変動計算書

当期 [自平成24年4月1日 至平成25年3月31日]

(単位:億円)

科目	株主資本					その他の包括利益累計額	新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計				
平成24年4月1日残高	500	3,176	4,747	△ 107	8,316	△ 608	6	3,735	11,449
当連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当			△ 162		△ 162				△ 162
当期純利益			185		185				185
その他		0	19	△ 4	15				15
株主資本以外の項目の当連結会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	408	△ 0	136	544
当連結会計年度中の変動額合計	—	0	43	△ 4	38	408	△ 0	136	583
平成25年3月31日残高	500	3,176	4,790	△ 112	8,354	△ 199	5	3,872	12,033

## 連結損益計算書

(単位:億円)

科目	当期		前期	
	[自平成24年4月1日 至平成25年3月31日]	[自平成24年4月1日 至平成24年3月31日]	[自平成23年4月1日 至平成24年3月31日]	[自平成23年4月1日 至平成24年3月31日]
売上高	30,885	32,081		
売上原価	24,401	25,079		
販売費・一般管理費	5,581	5,696		
営業利益	902	1,305		
営業外収益 <b>Point 3</b>	323	388		
営業外費用	355	358		
経常利益	870	1,336		
特別利益	212	235		
特別損失	253	297		
税金等調整前当期純利益	829	1,274		
法人税、住民税及び事業税	435	401		
法人税等調整額	△ 33	130		
少数株主利益	241	388		
当期純利益	185	354		

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

科目	当期		前期	
	[自平成24年4月1日 至平成25年3月31日]	[自平成24年4月1日 至平成24年3月31日]	[自平成23年4月1日 至平成24年3月31日]	[自平成23年4月1日 至平成24年3月31日]
税金等調整前当期純利益	829	1,274		
減価償却費	1,295	1,456		
たな卸資産	△ 241	△ 334		
営業債権債務他	182	△ 217		
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,065	2,179		
有形・無形固定資産取得	△ 1,352	△ 1,159		
有価証券・投資有価証券取得	△ 1,255	△ 418		
その他	910	944		
投資活動によるキャッシュ・フロー <b>Point 4</b>	△ 1,697	△ 634		
有利子負債	77	△ 1,311		
配当金他	△ 339	△ 330		
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 262	△ 1,641		
現金・現金同等物に係る換算差額	88	△ 18		
現金・現金同等物の増減	193	△ 114		
現金・現金同等物の期首残高	1,330	1,437		
新規連結等に伴う現金・現金同等物の増減	7	7		
現金・現金同等物の期末残高	1,531	1,330		

**Point 1** **資産合計**  
資産合計は、主に円高の修正に伴い海外連結子会社の資産の円貨換算額が増加したこと、また、クオリカプス(株)の完全子会社化により増加しています。

**Point 3** **営業外収益**  
営業外収益は、主に持分法による投資利益の減少により減少しています。

**Point 2** **負債合計**  
負債合計は、主に円高の修正に伴い海外連結子会社の負債の円貨換算額が増加したことにより増加しています。

**Point 4** **投資活動によるキャッシュ・フロー**  
投資活動によるキャッシュ・フローは、主にクオリカプス(株)の完全子会社化により支出が増加しています。

## 株式の状況

### 株式の状況 (平成25年3月31日現在)

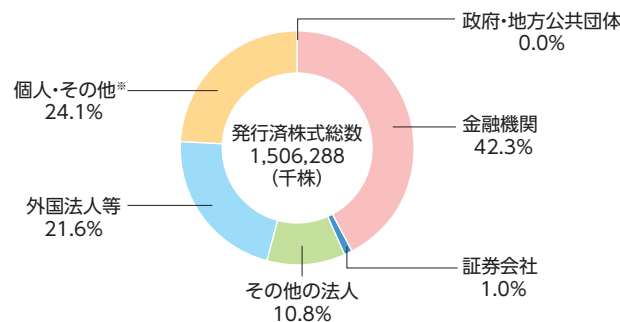
会社が発行する株式の総数	6,000,000,000株
発行済株式総数	1,506,288,107株
株主総数	185,978名

### 大株主 (平成25年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社信託口	70,761	4.7
明治安田生命保険相互会社	64,388	4.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口	61,321	4.1
武田薬品工業株式会社	51,730	3.5
日本生命保険相互会社	49,429	3.3
株式会社三菱東京UFJ銀行	41,105	2.7
東京海上日動火災保険株式会社	34,184	2.3
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT-TREATY CLIENTS	31,020	2.1
太陽生命保険株式会社	24,708	1.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口4	23,457	1.5

※上記のほか、当社が自己株式として31,244千株を保有しておりますが、当該株式については、会社法第308条第2項の規定により議決権を有していません。

### 所有者別株式分布の状況 (平成25年3月31日現在)



※「個人・その他」には、当社の自己株式としての保有分(2.0%)が含まれております。

## 会社概要

### 会社概要

商号	株式会社三菱ケミカルホールディングス (英文社名：Mitsubishi Chemical Holdings Corporation)
本店所在地	〒100-8251 東京都千代田区丸の内一丁目1番1号 (パレスビル) 電話 03-6748-7200

資本金 500億円

### 取締役 (平成25年6月25日現在)

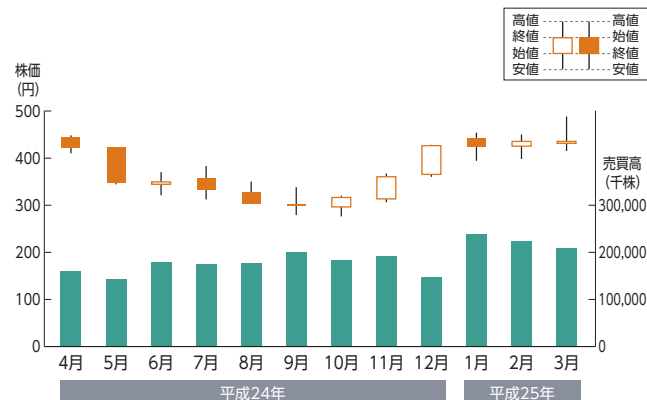
小林 喜光	代表取締役 取締役社長
吉村章太郎	代表取締役 副社長執行役員 経営管理室、 広報・IR室(IR)分担 グループ基盤強化室 (情報システム、共通基盤強化担当)
津田 登	取締役 専務執行役員 内部統制推進室長 経営戦略室、 広報・IR室(広報)、 総務室分担 コンプライアンス推進統括執行役員
石塚 博昭	取締役
土屋 裕弘	取締役
姥貝 卓美	取締役
越智 仁	取締役
橘川 武郎	取締役

※橘川武郎氏は、社外取締役であり、また、当社は社外取締役の同氏を、東京証券取引所及び大阪証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、両取引所に届け出ております。

### 配当の状況

1株当たり配当金(円)			
	平成23年 3月期	平成24年 3月期	平成25年 3月期
中間	5	5	6
期末	5	5	6
合計	10	10	12

### 株価・株式売買高の推移 (東京証券取引所)



当社IRサイトをご活用下さい。  
<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp>

当社ホームページでは、プレスリリースや経営計画、決算情報等を掲載しておりますので、ぜひご活用下さい。

三菱ケミカル

### 監査役 (平成25年6月25日現在)

山口 和親	常勤監査役
中田 章	常勤監査役
西田 孝	常勤監査役
鶴田 六郎	監査役 弁護士
水嶋 利夫	監査役 公認会計士

※西田 孝、鶴田六郎、水嶋利夫の3氏は、社外監査役であり、また、当社は社外監査役の3氏を、東京証券取引所及び大阪証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、両取引所に届け出ております。

### 執行役員 (平成25年6月25日現在)

大平 教義	常務執行役員	人事室長
唐津 正典	常務執行役員	グループ基盤強化室 (製造・レスポンスブルケア、 購買、物流、エンジニアリング 担当)
浦田 尚男	執行役員	グループ基盤強化室 (R&D、知的財産担当)
長田 雅宏	執行役員	経営管理室長
木曾 誠一	執行役員	ヘルスケアソリューション室長
瀬川 拓	執行役員	中国総代表
田中 良治	執行役員	経営戦略室長 グループ基盤強化室 (エリア戦略、マーケティング、 自動車関連事業推進担当)
二又 一幸	執行役員	CEOオフィス部長



## 株主メモ

- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月
- 株主確定基準日
  - (1) 定時株主総会 3月31日
  - (2) 期末配当金 3月31日
  - (3) 中間配当金 9月30日
 その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。
- 公告の方法
 

電子公告の方法により行います。  
但し、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。

◎ 公告掲載URL  
(<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/ir/index.html>)
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所
 

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
(〒100-8212)  
三菱UFJ信託銀行株式会社  
証券代行部
- 郵便物送付先及び電話お問合せ先
 

東京都江東区東砂七丁目10番11号  
(〒137-8081)  
三菱UFJ信託銀行株式会社  
証券代行部  
0120-232-711 (通話料無料)

### 『復興特別所得税』についてのご案内

(このご案内は2013年1月時点での情報をもとに作成しております。)

「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法（平成23年法律第117号）」の施行に伴い、所得税全体を対象として、**2013年1月から2037年12月までの25年間、基準所得税額に対し、2.1%の『復興特別所得税』が追加課税されることになりましたので、ご案内申し上げます。**

なお、上場株式等の配当等に関する具体的な税率は、下表をご参照願います。

		2013年	2014年 ～2037年	2038年～
上場株式 等の配当 等に係る 税金と税率	所得税	7%	15%*	15%
	復興特別 所得税	0.147%	0.315%	—
	住民税	3%	5%*	5%
合計		10.147%	20.315%	20%

※証券税制における軽減税率の適用終了による税率の変更です。

- 上記税率は源泉徴収が行われる場合の税率です。なお、内国法人の場合は住民税が徴収されません。
- 詳細につきましては、所轄の税務署等にお問合せ下さい。

**IR NAVI** アイアール ナビ とは、本冊子を株主の皆様とのコミュニケーションツールとして、当社グループに関する情報（IR情報）をよりわかりやすく株主の皆様  
にナビゲーティング（道案内）していきたいという意味を込めております。